（調査様式１）

１．　自己評価及び外部評価結果

作成日 平成　25　年　7　月　5　日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4675300158
法　人　名	社会福祉法人 希望会
事 業 所 名	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ やすらぎの里
所　在　地	鹿児島県姶良市下名2992番地 （電 話）0995-65-1641
自己評価作成日	平成25年5月30日

※事業所の基本情報は，介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	ＮＰＯ法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ケ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年6月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

私達のホームは、自然に囲まれた田園風景の中にあります。入居者様は、それぞれに思い思いのご自分の時間を過ごされています。又、「皆家族の一員」であるという共通意識への支援として、朝の居室・ホールの掃除や毎食事、ティータイム等には、お声かけし、なるべく皆で一緒の時間を過ごして頂いて居ります。日常生活支援としては、入居者様個々人が出来る範囲内で、調理・菜園の手入れ・洗濯物たたみ等の家事活動でご本人の得意分野を活かし、興味を引き出せる様な支援をしています。当ホームの自慢は、何と言っても豊富な天然温泉で、入居者様より大変好評を得ています。草取りボランティアの方々も、作業終了後に温泉に入り気持ち良かったと大変喜ばれています。行事関係では、毎月のボランティアさんによる絵手紙教室や四季折々に合わせた保存食作り（梅シロップ・ラッキョウ漬け・切り干し大根等々）は、入居者と職員が一緒になって、入居者から手順を教わったり寄り添って支援しながら作り、出来上がりを皆で楽しんでいます。毎日の日課としては、リハビリを兼ねて「ラジオ体操・サザエさん体操・ソーラン節等」で体を動かし心身共に機能低下しない様に日頃から心掛けています。地域との交流としては、施設のイベントに地区の民生委員の方、自治会の方々も参加して頂き、楽しみの一つになっています。今年は、夜間想定避難訓練にも参加して頂きました。又、園外活動も多く実施し、近隣の馴染みの場所をドライブする事で、景色や季節の移り変わりを肌で感じ、日常生活に張りのある日々を送って頂ける様支援しています。（初詣・県青少年センターでの花見・入居者の誕生日を兼ねたｲｵﾝでの外食・津軽三味線観賞等々）昨年は、地域の「案山子祭り」に参加し、かかし制作と余興参加で、山桜賞と祝金を頂き、皆で喜び合いました。
今後も入居者様一人ひとりに目を向け、それぞれの生活リズムを把握し、全入居者様が、「大切な人生を、地域の中でその人らしく暮らせる様」傍で支え続けたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点，工夫点（評価機関記入）】

・「ゆったりとした時の流れの中で、あなたに寄り添い、あなたと共に暮らします。」を理念として、自然の環境に包まれてゆったりと過ごせる空間がある。職員は明るく笑顔で利用者に寄り添い、信頼関係を築いている。
・利用者と職員が一緒に、菜園で野菜を栽培し収穫を楽しんだり、梅シロップやらっきょう漬けを作ったりしている。
・同じ敷地内にある同一法人の事業所との交流や特別養護老人ホームの夜勤に看護師を配置し、グループホームの夜勤者や利用者が安心できる体制となっている。
・施設内の豊富な温泉を利用して、いつでも入浴できるようにしている。同一敷地内に足湯もあり、散歩をしたときなどに気軽に利用している。
・住み慣れた地域や自宅付近までドライブしたり、買物先で馴染みの人などとの交流をしている。地域行事に参加したり、グループホームで行なわれる行事に地域住民を招待する等、地域交流を大切にしている。
・運営推進会議では、家族や地域の代表者・地域包括支援センター職員・民生委員等を交え有意義な会議となっている。
・災害対策については、同一敷地内の事業所との連携プレーで合同訓練や地域住民との協力関係が図られている。

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を「あなたの大切な人生を地域の中であなたらしく暮せる様にあなたのそばで支え続けます」と掲げ全職員で地域密着型ｻｰﾋﾞｽの意義を共有し日々のｹｱを実践している。事業所の地域の中での役割や理念について職員会議や毎朝のミーティングで話し合い唱和し意識してｹｱを実践している。	やすらぎの里がめざす、地域密着型サービスの理念を各所に掲げ、朝のミーティングや職員会議で話し合っている。理念の唱和を行い、振り替えりの拠り所として、ケアの実践に結びつけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事「小中学校の文化祭、かかし祭り」などへ入居者と一緒に参加したり、施設の行事「夏祭り、節分」などの呼びかけを行い地域の方々と一緒に地域の一員として準備や参加を行っている。又忘年会等への参加も呼びかけ入居者と一緒に楽しむ事が出来ている。	学校行事や地域行事に入居者と一緒に参加したり、法人やグループホームの行事に家族や地域住民を招待したり、災害に対して地域住民と自主防災組織をつくる等、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	日々のｹｱの実践を基に認知症に対する知識と経験、又グループホームの果たす役割について広く地域住民の方々や民生委員の方々等へ伝えるべく勉強会を実施している。入居者と直に触れ合って頂く中で入居者の不安やﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰに十分配慮しながら認知症の方を理解して頂くという機会を作るため年に数回の交流会を行い意見を交換している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	２ヶ月毎、定期的に御家族様、地域の代表者様、民生委員の方々、地域包括の方へ呼びかけ運営推進会議を開催し事業所の取り組み、自己評価の説明、外部評価の結果説明を行いその課題について皆様から様々なご意見を頂きより一層の「質の高いｻｰﾋﾞｽ」へ繋がるよう一体的に活かして行く事で相乗効果となっている。	会議は定期的に行なわれ、ホームの状況報告や利用者の現状・外部評価結果報告・改善課題等の報告を行い、ホーム外に出かける時の運転所の確保が課題との件で参加者より、協力の申し出がある等、利用者の暮らしの満足度を高めるよう、ケア支援に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り，事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃より市町村担当者とは連携を取っており運営上の疑問･問題点などが発生した場合は速やかに連絡、又は窓口へ直接出向いて相談・指導を受け協議しながら一緒に解決を図っている。	日常の行政への申請書類提出や報告を行って連携を図っている。運営推進会議での運営の状況確認のほか、現場の情報交換や課題など相談・報告を行なって協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所全体で身体拘束廃止委員会を設置し毎月定期的に会議を開催し、身体拘束ゼロを目標に全職員へ周知徹底をしている。外部研修への参加後の研修報告などもあり身体拘束廃止への理解を持ち拘束をしないｹｱを実施している。	身体拘束廃止についての外部研修会に参加したり、ホームでの毎月の研修会を行い、身体拘束ゼロを目標にケアに取組んでいる。日中、玄間等の施錠はしていない。部屋の窓から出ていく利用者もいるが、職員の連携を密にして、利用者の行動に寄り添ってさりげない見守りと声かけで、支援している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所全体で虐待防止について各種研修に参加し高齢者虐待防止法に関する取り組みを行っている。様々な心身への虐待についての知識や予防について全職員に周知徹底し虐待のないよりよいｹｱの実践に努めている。身体拘束廃止委員会との合同のマニュアルを作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、入居前より『地域福祉権利擁護事業」制度を利用されている援助者（２名）もあり、社協の担当職員の毎月の訪問により情報交換及び連携を取りながら支援している。又、事業所の職員も制度については福祉関係の資格取得などで、十分勉強し理解出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結・解約の際は十分に説明を行い重要事項説明書・利用契約についてご本人、御家族様が十分に納得、理解された上で利用者様の立場に立ち丁寧に説明し同意を頂き契約を取り交わしている。重度化や看取り及び医療連携体制などについても同様に十分な説明を行い納得理解され同意を頂いている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	普段から入居者様へ目や耳を傾け、心身の変化に早めに気付き、一つ一つの言葉にある思いを受けとめられるように努めています。又、ご家族とも面会時等で積極的に関わり情報交換・連携を図り、話しやすい雰囲気作りを行い信頼関係の構築に努めています。	利用者とは日頃の生活の中で話を聞いたり、態度・表情などから思いを把握している。家族からは面会時や家族会参加時や電話で利用者の状況を詳しく報告し、家族から意見や要望を聞いている。日常生活風景の写真や近況報告を定期的に郵送して、意見を伺ったり、改善したことを報告するなど、家族との繋がりを大切にしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は日頃から職員と話し合う機会を設けコミニュケーションを図っている。そこで提案された意見を必要に応じてミーティング・勉強会・職員会議を開催し、代表者も交え職員の共通理解を深め改善へ繋げている。	管理者は、ケース会議や作業部会・スタッフ会議等において、意見や要望を聞いている。職員が気づきノート等に書いた意見を会議で検討し、情報を共有し運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得や自己研鑽の為の各種研修への参加、仕事への意欲や取り組み等を見極め評価し、又職員自身の自己評価申告を実施し、十分な話し合いを行った上で、働きやすい環境・労働意欲や向上心を持てる労働条件の整備を行っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は事業所内外の研修への参加を積極的に勧めている。職員全体研修には外部講師を招いて全事業所のスタッフも参加している。各個人へ資格取得の為の勉強会も職場全体で取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区のグループホーム評議会の主催する事業者同士の研修に参加し事例検討や意見交換を通してお互いの事業所の情報交換を行いｻｰﾋﾞｽの質の向上に努めている。また法人内の研修に参加し交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時は事前面談を行い本人の困っていること、不安、要望等、些細な事柄についても傾聴し、本人の生活状況を把握し納得いくまで話し合うことで信頼関係を構築できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めての相談時、家族との面談を行い家族の悩みや不安なこと困っていることを聞き状況を把握し、要望等に耳を傾けて信頼関係へと繋がる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用に当たり、本人や家族の思い、生活状況等を確認し必要に応じた支援を見極め、事業所でのｻｰﾋﾞｽ内容をしっかりお伝えし、早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応をし当ホームに空きがない場合は他事業所のｻｰﾋﾞｽを紹介する等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に家事を行う様にしている。日常的に掃除、料理、洗濯物たたみ等、本人の得意なことを活かせる場面作りをしている。昔の歌や楽しい遊び方も教えて頂いたりしながら楽しく思い出されるようにしている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め日頃から家族とのコミュニケーションを取っており家族会の開催・誕生会・花見・運営推進会議等各行事への参加や協力を呼びかけご家族の思いを聞ける場を持つ様にしている。特に面会時には、ご家族の要望やご意見をお聞きし共に入居者を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から行きつけの美容室を利用したり他の事業所の友人・知人を訪ねたり来てもらったりしている。又、ドライブ等で馴染みのスーパー等に行ったり住んでいた場所を見たりしている。	知人に会いに行ったり、月に1回以上のドライブで、自宅周辺に行き馴染みの人との会話や墓参り・行きつけの美容室の利用・馴染みのスーパーマーケットでの買い物など、関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶や食事の時間は職員も間に入り一緒に食事を取り会話を持つ様にしている。又、ﾚｸﾚｰｼｮﾝや家事活動等を通じて利用者同士の交友関係を築いている。利用者同士のﾄﾗﾌﾞﾙや心身の状態、気分感情にも注意を払い見守っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の施設へ移られた利用者の所にも入居者と一緒に遊びに行ったり、事業所にも遊びに来てもらう等継続的な付き合いが出来る様心がけている。又、そのご家族にも立ち寄って頂いたり相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で本人又、入居者間との話を聞きご本人の思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方には言葉や表情から真意を推し図ったりご家族と相談し一緒に検討している。	利用者との会話の中からや些細な気づきを職員が「気づきノート」へ記入して全職員で情報を把握している。困難な場合は家族と連携を密にし、利用者の思いや変化など話し合い、本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時にご本人やご家族より聞き取りを十分行い本人自身の話や家族、知人等の来訪時にもプライバシーに配慮しながら把握に努めている。又これまでの主治医を利用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムや心身状態を詳細に記録し本人の全体像の把握に努めている。出来る事に着目し家事や趣味活動〈絵描き、塗り絵、カラオケ、ゲーム、料理、）等の取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や担当者会義などで必ずご本人やご家族の思いや意見を聞く様にし職員会議やｶﾝﾌｧﾚﾝｽで気づき、問題点等について話し合い介護計画に活かしている。介護計画の見直しは個々の状態変化に応じ本人ご家族の意見や要望を基に主治医や職員と話し合いを行っている。	入居時に本人や家族から思い等を聞き介護計画を作成している。日々の生活の中で、利用者の希望を聞いたり、職員の気づきノートや主治医の意見も参考にして、3ヶ月ごとにモニタリングを行い、6ヶ月毎に見直しを行っている。状態が変化した場合はその都度、計画の見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や介護日誌は個別に食事、水分量、排泄、、健康状態、月一回体重測定等日々の生活の様子を記録し情報の共有に繋げている。介護日誌は日中（黒）夜間（赤）と区別して見やすく工夫している。ｹｱﾌﾟﾗﾝ実施表を作り確認のチェックを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人ご家族の希望や状況により病院受診や送迎等必要な支援には柔軟に対応している。健康管理や状態変化に対しても協力医療機関による受診や24時間医療連携体制を取り医療ニーズの対応を行っている事でご家族にも安心頂いている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の地域住民と連携を取りつつ、民生委員、ボランティア、地域の小、中学校の文化祭、お祭りなどに参加する等、交流の機会を設け、入居者の方々に安心した楽しい時間を持って頂ける様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医や、本人・ご家族の希望する医療機関で定期的な往診を受けている。受診や通院は、家族同伴や希望により職員が付き添いを行っている。施設内での看護体制をより強化し、24時間体制により、ご本人・ご家族が納得の行く医療受診が行える様にしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し、通院や往診も実施している。協力医療機関との24時間医療連携体制で健康管理や緊急時の適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の看護師に入居者各人の病状経過などを報告し、状態悪化時に適切な判断を仰いでいる。又、看護職員は問題が生じた場合には、併設の他の看護師にも相談しながらかかりつけ医や、協力医院による24時間連絡体制ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院に対し、ご家族とも連絡を取りながら病状の把握を行っている。又、入院先の面会に行き経過を伺い、主治医に報告し、ご家族とも話し合い、少しでも早く退院出来る様に連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期のあり方については、アンケートや看取り介護並びに終末期医療に関する同意書を作成し、本人やご家族、主治医を交えて説明や話し合いを行い入居者全員の合意を得ている。又、その段階の時点で、ご家族と話し合い一番良い支援の方法を選択できる様に取り組んで行く。	重度化や終末期に向けた指針を本人や家族に説明し、同意書をもらっている。状態変化時には主治医を交えて家族と話し合いを重ね、希望に沿った対応ができるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各利用者の急変時及び事故発生を想定した連絡体制のマニュアルを作成している。消防署の協力により、事業所全体による心肺蘇生術（実技含む）の研修に職員が参加し、知識を高めると共に併設の看護師による応急手当などの勉強会を実施している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、地域住民の参加による総合避難訓練、夜間想定消火避難訓練、消防用設備等の総合点検を行っている。地域住民との自主防災組織を作り、話し合いや支援体制に取り組んでいる。	法人全体の総合避難訓練やホームで夜間想定の消火避難訓練を消防署の指導のもと行っている。地域住民の協力により自主防災組織を作り、自主訓練も実施している。防火設備等の点検もしている。災害時の水や食料は定期的に点検し、新鮮なものへ取替えを行なっている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりへの言葉かけには、ﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰを守りプライドを傷つけないように注意を払っている。又人権擁護委員会を設け定期的に事業所全体で勉強会を行っている。記録等の個人情報に関しては、保管場所を設け十分注意を払っている。	利用者への言葉かけについては、法人の接遇の研修会に参加し、人格尊重に心がけたケアをしている。居室やトイレでは、声をかけてから入室する等、プライバシーの保護に努め、記録物等は事務所のケースに鍵をして、厳重に保管してある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いには、常に耳を傾けコミュニケーションを取り自己決定できるようにしている。又意思疎通が出来ない方には表情や態度をくみ取り表現しやすいように対応している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人のペースに応じた柔軟な対応をし、その人の特徴を生かし持続する為に支援したり、その人がやりたい事を見守ってあげるようにしている。〈絵描き、塗り絵、ドライブ、読書、起床時間や入浴時間等〉		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床後の洗面と同時に髪の手入れや入浴後の洋服選びなど利用者の好みを聞いて一緒に行っている。又、馴染みの美容院を利用し髪をカットしてもらいおしゃれに興味を持って頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の中で味付けや盛り付け等を職員と利用者が一緒に考え工夫して作っている。食事の準備、あと片付けをできる方に手伝って頂き食器洗いやお膳拭きなど一緒にしている。	施設内にある菜園で、野菜を収穫して料理に使ったり、らっきょう漬けや梅シロップ作りを利用者と一緒に行い楽しんでいる。料理の本を一緒に眺めながら利用者へ食べたい物を選んでもらったり、買い物を職員と一緒に行ったりして、食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた食事量や水分量を把握し記録して不足しない様に栄養バランスや見た目を大事にして楽しみを持てる食事作りを心がけている。併設施設の管理栄養士による年に一回の献立のチェックや栄養についての勉強会などを実施している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に義歯の洗浄や、歯磨きの声かけや誘導を行ない、利用者全員の口腔ｹｱに努めている。自力で出来ない方には、見守りや援助により行っている。就寝前にはポリデント消毒を行っている。義歯の不具合な方へはご家族の承諾を得て、歯科往診を依頼している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりのｻｲﾝを見逃さないように様子観察しながら、さりげなく声かけ誘導を行っている。夜間帯はﾎﾟｰﾀﾌﾞﾙﾄｲﾚを使用し、転倒や排泄の失敗を気にされないように、本人の意向を伺いながらﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰに配慮して声かけ見守りを行っている。個々人の排泄パターン（間隔・量・排便・尿）を把握し場合により、下着にﾘﾊﾊﾟﾝ、尿取りパットを使用して頂いている人もいる。	日中は、個々人の排泄パターンを把握してトイレ誘導をさりげなく行っている。入所時や退院時にオムツ使用者がいるが、改善の努力をして現在はオムツ使用者はいない。排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を飲用し食事外にも水分補給に気をつけ、繊維質の多い食品を献立やおやつに取り入れている。朝の体操、踊り、歩行訓練、風船バレー、ストレッチ体操等で体を動かす機会を設け、便秘の予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	お一人おひとりの体調の変化をバイタルチェックで確認しながら入浴を行っている。本人の希望や好みに配慮し時間帯、順番は相談し決めている。又、本人が気乗りしないときは無理に勧めず時間を置いて声をかけるなどしている。行事浴も実施（ゆず湯・菖蒲湯）	天然温泉があり、いつでも希望に添って入浴できるように支援体制をとっている。菜園作業や散歩後の汗をかいた時などに入浴できるようにしている。入浴をいやがる利用者には、時間を置いて声かけしたり、足浴や清拭で対応し清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	掃除や食事作り、ﾚｸﾚｰｼｮﾝ、散歩、外出等日中の活動を通して生活のリズムを作り安眠に繋げている。寝つけない人には、お茶を飲みながら本人の訴えに傾聴し安心して休んでいただくよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個々の薬の目的を把握し正しく服薬できる様一人ひとりの薬剤説明書をファイル管理している。状況の変化をチェック、その記録などを医師へ報告し追加薬や随時薬の処方時は全職員が把握できる様申し送りノートに記入活用している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが楽しみながら自分らしく生活できる様、各々の生活歴、趣味等を把握して、本人が好きな事、できる事を支援している。本人の得意とする家事援助やレク活動（絵描き・食事作り・カラオケ・買い物・塗り絵）等で力を発揮されている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ホームにこもりがちにならない様に気分転換を兼ねて散歩に出かけたり、スタッフ同行でドライブ・買い物支援を行っている。歩行困難な方は車椅子等を利用して戸外へ。（移動手段は本人に合わせて配慮）地域の生き生きサロン、季節の行事計画（花見・ソーメン流し・初詣・外食）で戸外に出かける際は、家族やボランティアの方の協力を得ている。	日常的には、天候や体力に応じて、敷地内の散策や足湯に浸ったり、近隣の散歩を行っている。車椅子使用者も散歩や買い物・ドライブなど、外出の支援を機会あるごとにしている。要望により職員同行で買い物や美容院等へ出かけている。家族やボランティアの協力を得て、地域の行事やドライブに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆んどの入居者は家族が金銭管理をしている。本人の力や希望に応じて少額を所持してもらい安心して頂けるよう配慮している。馴染みの美容室の支払いや買い物時には、本人が自分の財布から自分で支払いできるようサポートしている。金銭の管理ができない入居者へは職員がお手伝いしている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族が遠方の方は、ホーム便りや毎月の絵手紙、本人の書いた手紙や塗り絵等を郵送している。絵手紙の年賀状、暑中見舞いを送り家族との交流を図っている。電話が来たり、こちらからかけたりする時は居室で子機を使用し気兼ねなくお話して頂くよう配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、ご飯の炊ける匂い、心地よい音楽、季節感を取り入れたゆず湯・菖蒲湯など五感を刺激するよう工夫し支援している。（利用者と一緒に作ったらっきょう漬け・梅シロップ漬け等を台所のカウンターに置いてる。）季節を感じられる様食材は旬の物を使い、又入居者と一緒に季節の花を生けたりしている。	玄間から居間・台所と繋がっていて、広いリビングにソファーが置かれ、自由にくつろげる空間である。職員と一緒に作ったらっきょう漬けや梅シロップ漬けの瓶が見える。身近に料理の音や臭いもかぐことができる。レクリェーションも楽しそうに行なっている。好きな場所で絵をかいたりおしゃべりをしながら、毎日の生活が居心地よく過ごせるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やリビングにソファーを置き、気の合う利用者同士で会話したり寛ぎの空間となってる。廊下にも小さなテーブルや椅子を置きいつでも自由に絵を描いたり、会話ができるよう工夫したいる。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が自宅で使用していた馴染みのタンス、布団、時計、ラジオ、写真、人形、絵画等使い慣れた日用品を、ご家族に持ち込んで頂いている。又、ご主人の遺影等をタンスの上に飾り、職員も飾る花を一緒に取りに行く等して居心地の良さに配慮している。	馴染みの物が部屋に置かれ、個性ある居室になっている。本人が、自分の部屋で落着いて過ごせるように意向を聞きながら、それぞれ個室の工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ﾄｲﾚや居室等混乱しやすい場所には入居者の目線に合わせ、名前、似顔絵、本人が描いた絵等を表示している。ホール、ﾄｲﾚ、浴室、廊下等ほとんどの場所に手摺りを設置し安全と自立への配慮をしている。入居者の身体機能に合わせて移動バーや滑り止めマットを使用し工夫している。		

Ⅴ　アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1 毎日ある
			2 数日に１回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 （参考項目：36,37）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に１回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は，活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない